建築探訪　南雄三　1998-5-31

村山雄一の最新作「ショップ地球人倶楽部麻布十番」

その店を探すのは大変だった。麻布十番としか分からないで来てしまう自分の愚かさに、いつものことながら呆れる。しかし、その店は一目で分かった。

エコショップのイメージは全くなくて、レストランと間違うような店構えだが、明らかにそれは村山雄一の建築だった。

　あけぼの子供の森公園（ムーミン村）に続くこの作品は、やはり土のニオイとメルヘンチックなムードを漂わせながらも、ムーミンとは違ったシャープさも併せ持っている。それは板のつくる水平線のせいであろう。波打つ壁は珪藻土、波打つ屋根は銅板で、足下には水がある。

店の入口は小さい。そして何故？・・・と思うが段差もある。「まー、いいか」と思いつつ中に入る。店内はやはり村山雄一の世界があって、シュタイナーのイメージが充満している。有機食品から健康グッズまで、食品を中心にしたエコの品々が店内に溢れている。面白いのは店内に高低差をつくり、スロープ状に板の床があって、また、かわいらしい板の階段を上り下りする。店員さんにとってはベビーカーのお客さんに少なからず気を遣わなければならないらしいが、この高低差が店内に変化をつくり、迷路の中で奥行きを感じさせている。天井は得意の珪藻土が波打っており、柱も壁も波打って、図面の世界からかけ離れた洞窟のような自然感がある。冷蔵ショーケースも全て自然塗料で塗られた板で囲われ、照明器具も板でマスクされている。

　経営を行うプロップスジャパンは10年前から自然食品の会員制宅配を始め、自由が丘に第一号店をもっていたが、会員の多い港区でアンテナショップとショールームの機能をもたせた二号店としてこのショップを出展した。

　「ここまでやってくれれば儲けものですよね・・」とまったく芸術性からかけ離れたおかしな感想を店員の方にいってしまった自分だが、とてもその言葉が似合うような「やってくれる」デザインでありました。

次の村山作品が楽しみです。